

令和6年度

**淡路市社会福祉協議会
事業計画**

社会福祉法人 淡路市社会福祉協議会

令和6年度 淡路市社会福祉協議会 事業方針

◎「ポストコロナの先」を意識した地域福祉活動の再構築

2023年5月に感染法上の類型が5類に引き下げられ1年が経とうとしています。昨年度は支えあいセンターで開催した福祉まつりや、地域のイベント等に予想を上回る参加がありました。このことをコロナ禍からの回復の兆しと捉え、基本理念である「共生循環型地域社会づくり」を進めるため、コロナ禍以前の社協事業や地域福祉活動の方法を振り返り、「ポストコロナの先」を意識し、昨年度に引き続き、新たな地域福祉活動の在り方を再構築する気持ちで取り組んでまいります。一方、福祉施設等では利用者等の小規模な集団感染が波状的に起こっていることもあり、メリハリのある感染対策を行ってまいります。

◎生きづらさ、暮らしづらさを感じる人を取り残さない役割や活躍の場の創出

コロナ禍の影響やつながりの希薄が言われる昨今、「生活困窮」や「ひきこもり」の課題が顕在化してきています。引きこもり支援の一環として、昨年度、淡路市福祉会館内で開設された「つながりほっとステーション」（淡路市が実施）との連携や、支えあいセンター単位での居場所や活躍支援の場づくりを進めます。また、多様な就労機会の創出や、居場所づくりを進めることはもとより、相互理解を促進するための啓発機会を充実します。

「生活困窮」や「ひきこもり」をテーマに、「参加」「役割」「活躍」「居場所」をキーワードに、「社協における生活困窮者支援体制強化事業」（ほっとかへんネットワーク配置事業）を通じ、特例貸付世帯への対応（相談支援・情報提供）や、生活困窮にまつわる様々な課題に対応できる支えあいの仕組みづくりのための体制を整えてまいります。また、昨年度に引き続き、社会福祉法人連絡協議会の設立に向け関係機関との課題意識の共有や連絡調整を行います。

◎第三次地域福祉推進計画の振り返りを前提とした第四次地域福祉推進計画の策定

本事業計画は令和5年度の事業を振り返り全ての職員が参加して作成しました。令和4年度事業報告書の作成や、昨年度実施した地域福祉推進計画の進捗状況確認にも全ての職員が参加しました。また、本年度策定する「第4次地域福祉推進計画」は策定委員のみならず、全ての役職員が参加し、策定過程を通じた社協活動と基本理念の融合を目指します。

◎包括的支援体制の構築を目指した行政や関係機関との協働と連携

地域共生社会の実現をめざし、これまで築き上げてきた行政や関係機関との関係を、より強固なものにするため、話し合いや学び合いの場を積極的に提案します。

◎淡路市社協の10年～15年先を見据えた組織検討と職員育成 2035年問題

令和6年4月当初の職員数は117人（職員27人、嘱託職員21人、パート職員69人）です。現状では職員は充足しているといえる状況ですが、これまでの法人運営を振り返ってみると慢性的な職員不足が続いてきました。福祉・介護職の担い手不足は人口減少社会において喫緊の課題といわれていますが本会においても同様の状況です。また、本会職員の年齢構成を見ると、2035年度に満60歳を超える職員が70.3%、嘱託職員が55.0%（合計平均63.8%）と、15年先を見据えた組織検討や職員育成は、まさに先延ばしにできない課題です。

職員処遇の向上を進め、やりがいをもって長く務めることができる組織作りが求められています。地域福祉を推進し続ける上で、組織として大切にすべきことを明確にし、中長期的な視点に立った組織的な検討を行います。また、職員育成については、先進的な実践の視察や、個々の主体性を重んじ積極的な研修機会を提供します。

【第1章】

【私たちのありたい地域】
「縁」があふれるまち

《大切にしたいこと1》
自分たちのまわりにある
活動の価値を知り、高める

【目指したいこと1】
地域の宝物(活動)を
集められるまち

【目指したいこと2】
地域の宝物(活動)を
みがいていけるまち

《大切にしたいこと2》
まだ見ぬ出会いへ
ちょっと踏み出せる

【目指したいこと3】
興味・関心で新しい
出会いがつかれるまち

【目指したいこと4】
新しい魅力や活動が
生まれるまち

《大切にしたいこと3》
知ってもらう・伝えてもらう

【目指したいこと5】
人やまちが元気になるた
めの分かち合えるまち

【目指したいこと6】
暮らしを豊かにする情報
が集まり、幅広く伝え合
うまち

《大切にしたいこと4》
力を合わせて困りごとを
解決する

【目指したいこと7】
相談したりされたりできる
「おたがいさん」のまち

【目指したいこと8】
いろんな人と力を合わ
せて不安を減らせるまち

第1章 ワークショップから見えてきた「私たちのありたい地域」(地域の活動目標)



【第2章】

【理念】 共生循環型地域社会づくり

＜風車型地域福祉活動＞

共生型地域社会づくり(社協の理念と活動目標)

重点活動①
**今あるものを活かした
 活動づくりと組織化支援**

基本活動1
 今あるものの価値を伝える
 活動をすすめよう

基本活動2
 今あるものを活かした
 取り組みをすすめよう



重点活動②
**新しい活動づくりと
 多様な主体による協働の推進**

基本活動3
 新しい活動づくり、場づくりを
 すすめよう

基本活動4
 新しいカタチの協働を
 すすめよう

最重点活動
**「当事者の主体化」と
 「双方向を意識した情報発信」**

最重点活動①
 地域の中で分かち合いの場づくり
 をすすめよう

最重点活動②
 出会いが生まれる情報を集め、
 伝える取り組みをすすめよう

社協の
 組織強化
 (基盤強化)

重点活動③
**重層的なネットワークづくりと
 相互扶助の推進**

基本活動5
 相談したり相談されたりできる
 まちづくりをすすめよう

基本活動6
 包括的な相談体制づくり
 をすすめよう

令和6年度 風車型地域福祉活動に基づく事業計画

1. 風車型地域福祉活動の「はなしあう」(法人の組織整備と運営)

(1) 理事会、評議員会、各地域支えあいセンター運営委員会の開催

社協の収支状況等、経営の状況にさらに目を向け、地域福祉財源の確保に向けた事業展開を行います。

- 活発な話し合いによる理事会の毎月開催
- 評議員会の開催
- 監事会の開催
- 理事・監事合同研修会(経営研修等)
- 地域支えあいセンター運営委員会の開催

(本部・各地域支えあいセンターの取り組み)

	令和6年度の事業計画
本部	協議を主眼に置いた理事会運営。事務事業・財務に関する審議で終わらない評議員会運営。法人運営に関する情報の監事への情報提供。理事・監事視察研修の検討。
つな	課題提起や視察などを取り入れながら、協議を深める。
いわや	テーマを決めた話し合いで、運営委員会を一層活発な意見交換の場とする。
ほくだん	毎月、地域の課題やセンター運営などについて地域の住民代表の方と共有・協議をすすめる。
いちのみや	運営委員会で、先進地への視察研修を行い、地域の課題、解決について協議をすすめる。
ひがしうら	運営委員会を開催して住民のさらなる主体的な参加・協議をすすめていく。

(2) 社協会費、善意の預託、共同募金の啓発

地域福祉財源に関わる社協会費・善意の預託・共同募金それぞれの目的・用途を分かりやすく周知し、さらなる理解と協力をすすめます。

- 社協会員の拡充(6月)
- 善意の預託の募集(6月)
- 赤い羽根共同募金運動推進(10月)
- 街頭募金の実施(10月)
- 募金百貨店(ぐるぐるプロジェクト)の推進

(本部・各地域支えあいセンターの取り組み)

	令和6年度の事業計画
本部	会費・募金の募集実績が微減していることを役職員が意識し、募集のための活動への新たなチャレンジを一丸となって実施する。新たな募金百貨店協力店をセンター職員と開拓する。

(3)職員の確保と育成

福祉業界における慢性的な人材不足の中、地域福祉推進のために必要な人材の確保および今ある貴重な人材の育成に向けた活動をすすめます。

- 中長期的な職員採用計画の模索
- 職員採用後の丁寧な研修体系の構築
- 多様な働き方に向けた検討
- 積極的な職場外研修への参加
- 役員・職員合同研修会の実施(地域活動事例集の作成)
- (会議を活用した)職場内研修の実施
- 各種資格取得支援の仕組みづくりの検討
- ICT(情報通信技術)等のデジタル活用研修
- スーパービジョン(援助者が上司などから教育、助言を受ける過程)の促進
- 経営・財務に関する学習

(本部・各地域支えあいセンターの取り組み)

	令和6年度の事業計画
本部	将来を見据えた職員採用・職員育成を主眼に、持続可能な法人運営の方法について検討する。 職員研修や視察研修を充実させ、職員の課題意識を表面化させる。

2. 風車型地域福祉活動の「すすめる」

(1)小地域福祉活動の推進

新型コロナウイルスの影響により地域での組織的な会議や活動が大きな制限を受け、話し合い等の活動機会が減少してきました。ポストコロナを意識した活動方法の開発・回復の方法や仕組みについて、住民の皆さんと話し合いながらすすめていきます。

- 小地域福祉活動のすすめ方についての再検討
- 小地域福祉活動組織(まち協・地区社協等)への支援
- 地域活動者(ボランティア等)への支援
- 地域座談会(話し合いの場)の推進
- 民生委員児童委員協議会との連携
- 福祉委員活動の推進(東浦地域)
- 小地域ごとの組織化に向けた働きかけ
- 小地域ごとの福祉計画づくりへの働きかけ
- 集落福祉フォーラムの実施検討
- 地域や見守り活動についての話し合い・再開発
(まち協、つながりねっと、地区社協、べっちゃんい、あんしんネット)
- プランターファーム等による相互見守りの推進

(本部・各地域支えあいセンターの取り組み)

	令和6年度の事業計画
つな	志筑地区では、まち協と協働イベントや、子育てサークル活動や子ども食堂、居場所づくり、竹の子ミニまつりなどそれぞれに実施していたものを、みんなで協議してよりよい集まりにしていこう。

いわや	地域の学びと気づき、「楽しい」を入り口にした参加と活躍の機会と場づくりをすすめる。
ほくだん	地域で活動されている方との連携を深めるため、地域の会合に出席して情報の共有や事務局からの提案などを伝えていく。
いちのみや	民生員児童委員協議会と「べっちゃんない活動」について再確認し、見守り、支え合いについて協議をすすめる。
ひがしうら	運営委員会でさらに話し合い、あんしんネットワーク会議を活かした小地域福祉推進組織づくりをすすめる。

(2)集まりの場の継続支援と活躍のための支援

淡路市内における「ふれあいいきいきサロン」や「いきいき100歳体操」の普及は、様々な活動へつながるきっかけになっています。引き続き1層・2層の生活支援コーディネーター間で市内外の情報共有と事例研究を行い、それぞれの地域住民と一緒に「参加と活躍」を意識した連携や協働を促進し、自分らしく暮らし続けるために支えあう体制づくりをすすめます。

- 生活支援体制整備事業の推進
- 今ある活動、集まりの場の継続分析
- コロナ禍において生まれた活動、集まりの場の調査研究
- 「ふれあいサロン」の活動支援
- 「コミュニティカフェ」の活動支援
- 「いきいき100歳体操」活動者との協働事業の検討
- 他地域との交流、情報交換の推進
- 地域活動拠点の継続支援と新たな活動拠点づくりへの支援
- 既存施設(各センター等)の多機能拠点化
- 地域イベントや各種つどい等の活動支援
- スマホキャラバンメイトの普及啓発
- 通所介護事業所、訪問介護事業所、在宅介護支援センター連絡会、介護支援専門員連絡会への参画
- ボランティア連絡会・研修会の開催など活動者への支援

(本部・各地域支えあいセンターの取り組み)

	令和6年度の事業計画
つな	今あるサロンやカフェでの集まり後に見守りや支え合い、防災の話を無理なく20分間で行うミーティングを普及させる。
いわや	今ある活動の場から、多様な主体と誰しもが参加活躍する機会を広げる。
ほくだん	地域住民の方が気軽に集まれる場を広げる。
いちのみや	参加者がより主体的に活動し、それが広がるよう、チャレンジの4つのメニューを中心に、小学校区単位で開催できるようにすすめる。
ひがしうら	今あるサロンやコミュニティカフェの他、久留麻老人福祉センターでの新たな居場所づくり、拠点づくりをすすめ、さらなるつながりや活躍の場を広げていく。

(3) 思いを話せる場や分かち合いの場の推進

自分自身や家族のことなどで不安や悩みを抱えている人たちが、日頃から感じている思いや希望、悩みを話せる場や分かちあえる活動づくりをすすめながら、自分たちの意思で目的に向かえるような支援を行います。

- 思いを持つ人同士の出会い、つながり、つどい場づくり
- 既存のグループへの継続・活動支援
- 新たなグループづくり・組織化
- 自分らしく過ごせる居場所づくりの推進
- 認知症家族会の開催
- 認知症カフェやつどい場に対する支援
- 作業所、ケアホーム保護者連絡会の開催
- 自立体験ステイ(宿泊体験)の実施に向けた検討
- 自立支援協議会への参画
- こみゆにてい・フットサル交流会の開催
- つながりサロン・キャンプの開催

(本部・各地域支えあいセンターの取り組み)

令和6年度の事業計画	
本部	本人・当事者を中心にした分かち合いの場づくりを主眼とする。本人・当事者のおもいを受け止め支援者や地域住民を巻き込みながら相互理解が促進される運営を意識する。
つな	「福祉カフェ気づき」と「スマホ教室」の間で参加しあう人や、いろいろな集いに気軽に参加する人が増えてきた。この流れを継続して、新たなグループ化を目指す。
いわや	サロンや道端の立ち話などでつづやきをひろい、個人や集団の自己実現を支援する。
ほくだん	同じ思いを持つ人、しんどいと感じている人同士で集い、話し合える場所づくりを継続する。
いちのみや	今ある当事者グループ(認知症家族、男性介護者、カフェ)にとどまらず、生きづらさを抱えている当事者居場所づくりをすすめる。
ひがしうら	一人ひとりの「おもい」をよく聞き、一緒に考えながら、出合いやつながり、分かち合いの場づくりをすすめる。

(4) 多様な媒体による積極的な情報発信

出合いや気づきを生み出す情報を日頃から意識して集め、広く伝えていく取り組みをすすめます。また、社協活動や福祉について言語化・視覚化し、わかりやすい情報発信に努めます。

- 地域支えあいセンターだより「すまいる」の毎月発行
- 小地域ごとの住民参加による広報誌の発行支援
- 地域の宝物(活動・行事)発掘と発信
- 広報誌におけるモニター制、投稿制の検討・試行
- 地域指標(人口データ等)の活用・分析
- 淡路市社協パンフレットの制作・活用
- 淡路市社協ホームページ・SNSの更新
- オンラインを活用した情報発信

(本部・各地域支えあいセンターの取り組み)

	令和6年度の事業計画
本部	支えあいセンターや事業所の後方支援を行うとともに、必要な情報や技術の提供を行なう。ホームページやSNSへの積極的な情報提供や、パンフレット等の紙媒体の充実も図る。
つな	月1回は、集まりや活動の様子をSNSで発信する。
いわや	住民ライターとともに、住民参加型のお宝さがしと情報発信を継続する。
ほくだん	いろいろな方に共有してもらえるように、「すまいる」だけでなく、SNSを使った情報発信を増やす。
いちのみや	・社協SNSをより活用し、一宮地域の情報を発信する。 ・「すまいる」に、読者投稿欄を掲載できるように準備をすすめる。
ひがしうら	・「すまいる」の発行を通じて、住民が求めている情報や今ある活動の積極的な情報発信を行う。 ・人口データを活用し、主体的な話し合いを広げていく。

(5)地域における福祉学習の推進

支え手・受け手の関係を超えた、お互いが学び合い、共に生きていくための福祉学習を地域の中においてすすめていきます。

- 市内の学校に対する福祉学習の推進
- 地域住民向け福祉学習の推進
- だれでも参加しやすい福祉学習の推進
- 市内他地域活動の相互視察の実施
- 福祉事業所との協働による相互理解・福祉学習の推進
- 福祉学習に関する研修会・連絡会の開催
- 小学校、中学校を通して体系的に学ぶ仕組みづくりの検討
- オンラインの活用など新たな福祉学習の充実
- 福祉教育指定校による助成

(本部・各地域支えあいセンターの取り組み)

	令和6年度の事業計画
つな	津名地域の福祉事業所の職員も車いす体験や認知症サポーター養成講座などを協働で目的や考え方を共有し、話し合いながら進めていく。
いわや	センターが知らない、関わりの薄かった層にも、地域のことを知って学び、参加できる機会を企画し、地域の共生力を上げる。
ほくだん	子どもから高齢者まで、それぞれが知りたい事をわかりやすく学べる福祉学習をすすめる。
いちのみや	・年間を通して系統だった福祉学習ができるように学校と協議をすすめる。 ・一宮管内の他社会福祉法人とも連携しながら、こども達と学ぶ場を創る。
ひがしうら	・作業所との交流を交えた双方向で学び合える福祉学習の機会づくりをすすめる。 ・既存の集まりや活動の場から住民むけの福祉学習の機会づくりをすすめていく。

(6)参加と活躍、出会いと力合わせの場づくり

様々な人やグループが出会い、知恵を出し合いながら理想の地域像を描き、同じ方向を向いて力を合わせるような働きかけを行っていきます。

- 各地域支えあいセンターによる「福祉まつり」の開催
- 防災やひきこもり、男性の料理など共通のテーマや趣味に基づいた出会いの場づくり
- 世代間・活動領域を越えた多世代協働事業の検討
- NPOや企業等の他団体と協働事業の検討
- 小学校、公民館、子育て学習センター等の教育関係団体との協働
- 社会福祉法人連絡会(ほっとかへんネット)の設立に向けた取組み

(本部・各地域支えあいセンターの取組み)

	令和6年度の事業計画
本部	社会福祉法人連絡協議会の発足を意識し、社会福祉法人としての社会(地域)貢献のあり方と、共通する課題の改善に向け向け引き続き話し合いを行う。
つな	まちづくり協議会やまあるく、島くらし淡路、子育てサークルなどと連携しながら、子育てなどの課題について考える。
いわや	公民館と、漁協・道の駅・子育て学習センター等協働で、多様な主体が学び活躍する事を企画。
ほくだん	地域の住民が主体的に参加でき、活躍できる場づくりをすすめる。
いちのみや	多くの主体の参加と協議をすすめ、一宮地域の住民の力合わせの場として「いちのみやの住民福祉祭り」を開催する。
ひがしうら	住民にとっての「共通のテーマ」を常に意識しながら、出会いの場や力合わせの場づくりをさらにすすめる。

3. 風車型地域福祉活動の「ささえる」

(1)暮らしを支える相談窓口の推進と生活困窮者支援の取組み

地域住民の暮らしの中にある課題や生きづらさと向き合い、受け止めていく相談窓口づくりと、相談を入口にした参加の機会を広げ、誰もが役割・活躍を感じ、お互いに認め合える地域づくりをすすめていきます。

- 日常的な相談窓口の推進
- 日常生活自立支援事業における相談及び支援
- 成年後見制度利用促進法における中核機関との連携
- 生活困窮者自立支援事業における相談支援
- 住居確保給付金、一時生活支援事業の相談受付
- 生活福祉資金、小口資金貸付の運用
- 食糧支援・生活必要物品貸与の実施
- 企業などと連携した新たな食糧支援の研究・仕組みづくり
- 生活困窮者支援・ひきこもり支援に関する啓発活動
- ひきこもりに関する相談対応、居場所の支援
- 社会参加、中間的就労、福祉的就労に向けた研究・模索
- 無料職業紹介所開設に向けた検討、実施
- 各種会議を通じたケース検討と支援策の開発

(本部・各地域支えあいセンターの取り組み)

	令和6年度の事業計画
本部	法人全体で相談者を受け止めることができる体制の整備。安定的な食料支援のあり方について検討。中間的就労をはじめとする就労支援策の調査研究の継続。
つな	・会議や集まりで民協、障がい相談、他事業所などと情報共有しながら支援をすすめる。 ・日常生活自立支援事業の業務や体制を整理する。 ・ひきこもり支援に関して「すまいる」やチラシなどで普及啓発に努める。
いわや	地域で暮らす人と関係機関(行政、包括、事業所等)と社協が互いに頼り頼られる関係をつくる。
ほくだん	・「不安を話せる窓口づくり」を意識して相談対応する。 ・地域ケア会議メンバーとケース検討や地域の課題について協議を深め、必要な支援策の検討を行う。
いちのみや	相談支援を窓口にした仕事や役割づくり、活躍支援につなげる拠点づくりの検討を、センター内ですすめる。
ひがしうら	本人の意思決定を中心にしながら、身近な相談窓口づくりをすすめる。 また、一人ひとりの役割支援や活躍支援の視点を常に持つ。

(2) 包括的な支援体制づくりに向けた行政との協働

複合・複雑化したニーズに対応するため、官民の協働と連携による「相談支援」「参加支援」「地域づくり支援」の3つの支援を行う包括的な支援体制の構築が求められています。淡路市との連携・協働により、誰もが安心して暮らすことができる淡路市、また地域共生社会の実現に向けて取り組んでいきます。

- 分野にとらわれない横断的な話し合いの場づくり
- 官民協働による「一旦受け止める」窓口づくり
- 学習会や研修を通じた行政との課題共有
- 家電製品や制服等の貸与についての仕組みづくり
- 官民協働による新たな資源開発

(本部・各地域支えあいセンターの取り組み)

	令和6年度の事業計画
本部	「包括的な支援体制の構築」に関する調査研究を継続的に行なう。世代や属性にとらわれない支援観の共有を、法人内部はもとより行政をはじめとする関係機関と進める。

(3) 地域での暮らしを支える福祉事業所の展開と運営

既存の制度やサービス提供のみを行ったり、一人ひとりを支えられる対象として捉えるのではなく、本人を中心に据え、誰もが「助けられたり助けたり」する関係づくりを地域ですすめていくための事業所運営に取り組んでいきます。

- 地域に開かれた事業所運営(運営推進会議等の開催)
- 本人の力を生かした活動開発の検討
- 地域協働による事業・商品開発
- 地域生活課題に対する活動事業開発(食・移動・居場所等)
- 誰もが「参加」「役割」「活躍」を持った活動・事業の推進
- 障害者虐待防止センターの運営(障がい者虐待の一次窓口)

■地域ケア会議、地域課題拡大ネットワーク会議への参画

(各事業所の取り組みはP.19～ご覧ください)

事業所名	事業種別
介護支援 てのひら ゆうゆうライフケアプランセンター	居宅介護支援
もみじの里デイサービスセンター ゆうゆうライフデイサービスセンター	通所介護
いちのみや訪問看護ステーション	訪問看護
福祉用具レンタル事業所	福祉用具貸与
竹の子作業所 あいあい作業所 ひまわり作業所 さぬきうどん幸来 地域生活多機能拠点 いづかしの杜	就労継続支援B型
障がい者地域生活拠点 ぼれぼれ	就労継続支援B型・生活介護
障がい者サポートセンター ハピくるステーション	相談支援
ケアホーム いちごの家 ケアホーム ハピくるの家	共同生活援助

(4)生活福祉課題に向けた委託事業の推進

地域で暮らしていくためには、福祉資源も活用しながら、本人がこれまで培ってきた力が発揮できる支援が必要です。その人を受け止め、地域生活の支えとなるような活動をすすめます。

- 「食」の自立支援事業の実施
- 外出支援事業の実施
- 軽度生活援助事業の実施
- 介護用品支給事業の実施
- 高齢者等住宅安心確保事業(LSA)の実施
- 社会福祉会館・北淡総合福祉センター・一宮高齢者生活福祉センター・久留麻老人福祉センターの指定管理

【法人運営事業】

・「淡路市社会福祉協議会本部」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

生きづらさや暮らしづらさを抱える本人の役割や活躍の場への組織体制づくりをすすめていきます。さまざまな形で、情報を分かりやすく丁寧に届けていきます。

≪ 令和6年度の重点的取り組み ≫

タイトル		内容	(令和5年度の重点活動)		(令和5年度の振り返り・チェック)
生活困窮者の活躍支援		・社協における生活困窮者支援体制強化事業として、目的を明確にした活動しやすい組織体制づくりをすすめる。 ・特例貸付者へのフォローアップ(調査→応援団づくり→働く場づくり、仕事づくり)強化と共に、中間的就労(認定就労事業)を模索していく。 ・生活のしづらさ・苦しさを抱える本人の役割や活躍の意識が高まる取り組みや世帯に応じた食糧支援の在り方をすすめていく。	ほっとかへんネットワークの配置		・令和5年度の新規事業として始まり、内職を紹介してもらえる会社との関係が増えて活躍を応援することができた。 ・特例貸付世帯へのフォローアップが少なく、進め方のビジョンが不明確で、社協内でも仕組みが分かりにくかった。 ・中間的就労(認定就労事業)を模索していきながら、活動しやすい組織体制づくりや食糧支援について検討をすすめていきたい。
目指したいこと	3・4・5・8		目指したいこと	4・5・8	
淡路市子育て支援事業への協働		・市内に生まれる新生児やその家族が、子育て支援の機関とつながることを支援する市の事業に、おむつ支給だけにとどまらず、子育て学習センター等の子育て支援団体との意見交換をすすめていく。	淡路市子育て支援事業への協力		・子育て応援課と共に新規事業として取り組み、おむつ支給(用意)のみを担った。 ・子育て学習センター等(こども関係の支援者/団体)との意見交換をすすめていきたい。
目指したいこと	6・7・8		目指したいこと	3・6・7	
分かりやすい広報活動		・社協を知ってもらうための情報や、全市的な情報を伝えるほか、参加したいと思えるような地域の活動(お知らせ・報告)を各センターから情報収集して、ホームページやSNS等で積極的に発信する。 ・社協パンフレットを作成して分かりやすく見える化していく。	広報活動の充実		・ホームページのリニューアルや SNS を開設したことで、さまざまな媒体からPRができた。また、住民からの声を聴き、必要な情報を更新した。 ・活動のお知らせが多く、事業開催後の報告が少なかった。 ・すまいる発行は各センターのみにとどまり、全市的広報や社協パンフレットが作成できなかった。
目指したいこと	1・3・4・6		目指したいこと	3・4・6	
職員間のつながりづくり		・職員ニュースを通じて、社協内のことを知り、興味を高めてもらう。 ・職員の声を聴いて、福利厚生や事業所紹介に合わせて、さらに充実した職員ニュースを発行する。 ・互助会と連動して、職員同士のコミュニケーションが深まるように、お楽しみイベントを企画する。	職員ニュース発刊		・毎月、職員にとって身近な情報(福利厚生や事業所紹介)を意識した職員ニュースを発行することができた ・紙面の都合上、載せられないことが多く、読んでもらえているのか分からないと思えることもあった。 ・センター職員からの提案を募り、楽しい記事づくりをすすめていきたい。
目指したいこと	3・5・6		目指したいこと	3・6	

・「地域支えあいセンターつな」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

地域の人が福祉について学ぶ機会や福祉学習サポート、サロン・カフェ、まち協同士の情報交換、子どもを通して子育て世代の人も地域活動に参加する機会を作る等、さまざまな世代のつながりづくりや活躍支援を行います。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）	
福祉カフェ気づきの周知、より気軽に参加しやすく、身近な出会いを作る	3・5・6	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェのことを地域の人に周知し、参加者同士が知り合い、つながり合う。 ・参加者の興味や関心のあることの中から学ぶ。 ・図書館入り口にあるカフェスペースでの開催を目指すなど、気軽に参加できる機会を作る。 	福祉カフェ「気づき」の開催		<ul style="list-style-type: none"> ・6月より毎月開催することが出来た。 ・毎回少人数の開催であったため、参加者同士で話を深めることが難しかった。 ・地域への周知をし、より気軽に参加できる機会づくりをする。 	
目指したいこと	3・5・6	<ul style="list-style-type: none"> ・2、3カ月に1回はゲストスピーカーを呼ぶ。視察にも出かける。 	目指したいこと	1・3・6		
サロン・カフェ等世話人の情報共有会の定期的開催	2・6・8	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回は開催する。 ・お宝探し(人、もの)をする。 ・他地域に視察に出かける。 ・情報誌を作成する。 	サロン、カフェ等世話人の情報共有会		<ul style="list-style-type: none"> ・3月に実施予定 他のサロンの活動内容の共有が必要との声があった。 ・お互いに行き来しているところもあるが、全体的には出来ていない。 ・定期的な開催。 	
目指したいこと	2・6・8		目指したいこと	2・6・8		
イベントなどでのつながり作り	1・3・4	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに関するイベントや居場所づくりなどを関連団体やグループ等と協働で行う。 ・今あるイベントなどを活用して、さまざまな特技をもった人が子どもなどに教えてもらう。 	さまざまな世代のつながりづくりや活躍支援		<ul style="list-style-type: none"> ・福祉まつりや志筑で楽しもうイベントで地域の方に竹細工や工作を通じて、子ども達に伝達。 ・定期的な開催は出来なかった。 ・まち協、サロン・カフェやイベントなど今ある集まり等への活動支援。 	
目指したいこと	1・3・4		目指したいこと	1・4・5		
20分間ミーティングの普及	2・6・7・8	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンやカフェの集まり後に、見守りや防災について無理なく話し合いが出来るよう、20分間だけと時間を決めて実施。 ・定期的な実施 ・まだ出来ていない所への普及。 				
目指したいこと	2・6・7・8					
まちづくり協議会代表者との意見交流会	3・6・8	<ul style="list-style-type: none"> ・まち協の活動状況や助成金の取り方など、まち協同士の意見交換会を実施する。 				
目指したいこと	3・6・8					
福祉学習サポート	2・4・6	<ul style="list-style-type: none"> ・社協職員が主に行っていた学校等への福祉学習を、津名地域の福祉事業所職員などにも呼びかける。 ・目的や考え方を共有し、話し合いながら、協働で車いす体験や認知症サポーター養成講座などをすすめる。 				
目指したいこと	2・4・6					

・「地域支えあいセンターいわや」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

楽しい、おもしろいを入口にして、誰しもの役割と参加を大切にしながら人づくりをすすめます。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）	
どこでもつながる相談窓口		<ul style="list-style-type: none"> ・サロン等の集い場、見守りネット、道端の立ち話でも声をかけ、ちょっとした相談とつづやきをひろう。 ・地域で暮らす人達と関係機関（行政、包括、事業所等）と社協が互いに頼り頼られる関係をつくる。 	気軽に寄れる相談窓口		<ul style="list-style-type: none"> ・最初に窓口へ来ることはハードルが高い。 ・窓口に来て話して得心して帰る人達もいる。 ・出先や道端で相談を受ける機会がある。 ・包括や在介、病院、施設、行政など、専門職との連携には濃淡がある。 	
目指したいこと	5・6・7・8	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て、移住者、生活困窮等それぞれの関係機関との連携をすすめる。 	目指したいこと	5・6・7		
参加と活躍を探します		<ul style="list-style-type: none"> ・円卓会議「家事の素」を継続し、参加・活躍の機会を探る。 ・つながりボランティア代表者会/ふれあいサロン/岩屋港夏祭り実行委員会/がいなはびくる祭りボランティア代表者会/鶴崎地区民生委員の会等既存の場、地域の行事や風習を守る人達との協働の場を大切に、参加・活躍の機会を探る。 	活躍・参加を探します		<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊りの復活、感動と感謝の声が多数。練習会を通じて古参の団体と移住者や若い人たちの交流が新鮮だった。郷土芸能を絶やさないことなると思った。企画～準備を通じて関係する人の幅が広がった。 ・アイデアをふくらませたいので反省会に出席したい。 	
目指したいこと	3・4・8		目指したいこと	4・8		
参加支援・活躍支援と人づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い世代が地域で学び活躍することを企画し、多様な主体が地域づくりに関わることを目指す。 ・中間的就労を拡大し、誰しもの参加と活躍の機会を広げる。 ・地域生活拠点つながりの活用を世代問わず広げる。 ・地域の風習をきっかけに、人づくり、地域づくりをすすめる。 <p>（朝市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集荷する機能を検討。市民農園利用者等、新たな生産者との協働を探る。 	活躍・参加をすすめます		<ul style="list-style-type: none"> ・後継者が見つからない。これまでの団体や組織が存続の危機。 ・もっとたくさんの世代の参加を望む。 ・内職を通じて人が元気になる。その周りのことも元気にする。 ・円卓会議や、男性料理教室など他地域の取り組みに学び、楽しいことをきっかけに、参加と役割の幅を広げたい。 	
目指したいこと	1・2・3・5	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者と地域の人や活動者が互いに元気になる取り組みを企画する。 	目指したいこと	1・2・5		
			朝市		<ul style="list-style-type: none"> ・山のおばちゃんの体調が心配。 ・作っても持ってこられない生産者、好きなものを作れる分、少しだけ作っているという生産者がいる。 ・利用者は変わらず多く、プロの生産農家さんから聞けるアドバイスなどありがたい。 	
			目指したいこと	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> ・生産出荷は引退したベテランの方も目利きだけで活躍してもらっている。 	

・「地域支えあいセンターほくだん」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

さらなる地域の拠点化

≪ 令和6年度の重点的取り組み ≫

タイトル		内容	(令和5年度の重点活動)		(令和5年度の振り返り・チェック)
センターの拠点化(継続)		引き続き、気軽に立ち寄れるセンターであり続けるための工夫をする。	センターの地域拠点化		ふくふく市や、100才体操などを通して、定期的に来所される方が続いている。 引き続き、センターが地域の拠点であり続けるように職員で協議しながらすすめていく。
目指したいこと	1・3・6		目指したいこと	1・3・6	
定期的な学習・気づきの場づくり		・引き続き学習の場を続け、今年度は他のセンターなどにも声をかけ、いろいろな職員が話す機会をつくる。 ・参加される住民の方からの知りたいことを掘り下げていく。	定期的な学習・気づきの場づくり		職員が普段の業務の中、気づいたことなどを話すことで住民の方もいろいろな気づきを持ってもらうことが出来た。センターほくだんの職員だけでなく、他の事業所職員にも声をかけ様々な気づきができる場にしていきたい。
目指したいこと	4・5・6		目指したいこと	6・7・8	
地区社協の活動を推進		コロナ禍を経てこれまでスムーズに進められていた活動も、活動がとまっていたことで申し送りが出来なくなり、地域での協力など難しくなったこともあるので、話し合いの機会が増えるような提案と、研修の機会を作っていく。	地区社協の活動を推進		コロナ禍が開け、少しずつコロナ前のような内容の活動が行われている。これまで関わる事がなかった職員も活動推進のお手伝いをする事が出来た。引き続き各地区の活動が続けられるように支援をしていきたい。
目指したいこと	2・5・8		目指したいこと	1・5・8	
ふくふく市の発展・充実を維持しながら休憩スペースを作る		・取り組みを継続しながら、野菜や手芸品の出品者やお手伝いしてくれる方の拡大を図る。 ・来所した際、誰でも休憩や交流ができる“つながりの場”として発展させる。 (例:お茶を飲む場、デイ利用者や地域住民の作品の展示等が出来る共有スペース)	「ふくふく市」の発展・充実		野菜や手芸品を買い求めに来られる住民、新たにふくふく市に手芸品を出品してくれる住民が増えた。また、野菜の収穫・洗浄・袋詰め・結束作業等の協力者も出てきた。一方で、作っているのが高齢者や車の免許を持っていない方の為、地域住民自身による野菜の納品、陳列ができなかった。今後は、したり・されたりを大事に地域協力者との関係を維持していきたい。
目指したいこと	1・2・3・4・6		目指したいこと	1・5・8	
親子クッキングの開催		青空ミーティングを続け、新たなつながりを作っていくために「子育て学習支援センターほくだん」と地域の協力者で『親子クッキング』を開催した。今後もクッキング等を通して気軽に参加・交流ができる場所を作っていく。	「青空ミーティング」の開催		毎月開催してきたが、子育て世代の生活スタイル(時間帯等)と合わないのか参加がほとんどなかった。また、青空ミーティングからつながった親御さんが気軽に立ち寄れる場所として、センターの座敷スペースを活用したデイ利用者、生活介護のメンバーと一緒に過ごす場所を作ったが、当初は参加も数組あったものの青空ミーティング同様、参加がなくなっていった。
目指したいこと	3・4・7		目指したいこと	3・6・7	

・「地域支えあいセンターいちのみや」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

地域の中で孤立する人をなくすために誰かとつながることを意識し、活動などに参加することを通じて活躍できる場づくりをすすめていきます。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）
住民の声を拾うことから始める 地域福祉の推進		センター全職員が所属に関係なく、訪問先での出来事や、地域の住民の声を拾うことで、どのような地域課題があるのかを意識し、定期的な職員会議でその共有をはかる。			
目指したいこと	5・8				
活動者その他の主体との つながりづくり活躍支援		・編み物倶楽部をはじめ、4つのなんでもチャレンジ倶楽部と、他の地域の活動と協働する機会をつくる。 ・「こんな事したい」「これだったら教えられる」という住民の声を形にしていく。	チャレンジから生まれる多様な活動		自分達が今出来る事を無理なく形にすることを目的に、編み物倶楽部メンバーと、編み物好きの友人たちでマフラーなどが出来上がり能登の被災地へ送った。年間を通じて参加者も固定してきているが、自分達で考えて進めていく力も生まれてきている。
目指したいこと	2・4・6		目指したいこと	3・4・8	
			まちなか食堂「お互いさま運動」		江井地区や郡家地区での旧食堂の活用に向けた話し合いから始めることを計画していたが、活動者となることができなかった。 次年度は「食」だけでなく、まだ出会っていない既存の集まりの場などにも出向いていきたい。
			目指したいこと	1・2・7	
福祉の学びの場づくり		・まちづくり協議会をはじめとした地域の活動主体や、活動者と話し合いの場をもつことで、子ども以外にも福祉を学ぶ機会を広げる。 ・中学校とも福祉学習の機会がもてるように働きかけを続けていく。	新しい福祉学習の推進		管内小学校2校での福祉学習に加え、多賀小学校では新しく親子プラススポーツ体験などの機会を持つことはできたが、中学校での福祉学習や住民向けの福祉学習は働きかけが不足し、実現できなかった。
目指したいこと	6・8		目指したいこと	6・8	

・「地域支えあいセンターひがしうら」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

東浦地域では、今なお地域の様相が大きく変化しています。コロナ禍を経て、「誰が住んでいるのかわからない」という声もよく聞くようになりました。改めて話し合いをベースにしながら、誰もが安心して暮らせるまちづくりをすすめていきたいと考えています。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）	
「はなしあい」を軸にした「おたがいさま」の地域福祉活動をすすめます		<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんネットワーク会議の小地域福祉推進組織化に向けた話し合いを継続し、主体的な活動につなげていく。 ・職員会議を定期的開催し、情報共有、方向性の確認を行いながら共生循環型の地域社会づくりに向けての活動をすすめる。 	「はなしあい」を改めて丁寧にした地域福祉活動		職員会議を数回開催し、今地域で起こっていることやどんな人と関わっているかなどについて把握することが始まった。人員の限られているセンターなので、聞いていると問い合わせがあった時にも答えることができた。また、運営委員会でも少しずつ主体的な話し合いが進んでいるので、運営委員会から徐々に各地域に広げていきたい。	
目指したいこと	1・2・5		目指したいこと	2・4・6		
出合いのきっかけづくりと、居場所・活躍の場づくりをすすめます		久留麻老人福祉センターという拠点を活用して、人と人の出合いのきっかけづくり、誰でも気軽に立ち寄ることのできる居場所づくり、誰もが活躍できる場づくりをすすめる。	久留麻老人福祉センターのさらなる活用		ラジオ体操やスマホ教室などをきっかけに利用される方が増えたり、変化してきている。老人福祉センターが出合いの場にもなっているので、各種教室の情報発信なども検討が必要。	
目指したいこと	3・4・6		目指したいこと	1・3・5		
本人を中心にした意思決定支援		それぞれの業務・支援の中で、本人よりも家族に目が向いたり、支援者の主観が入ったりすることがある。あくまでも「本人が生活の主体者」であることを忘れず、本人の意思を尊重できるような意思決定支援を大前提に、関係機関と連携しながら支援していく。	一緒につくる 「お昼ごはんの日」と「地域劇」と「花壇」		計画したが、すすめることができなかった。 改めて住民の声を聞くことや各種グループと話し合いを続けていきたい。	
目指したいこと	5・7・8		目指したいこと	5・7・8		

【介護保険事業】

・「介護支援てのひら」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

地域で活動する中で、住民より介護保険制度や福祉サービスについての説明を希望する声を多くいただきました。住民が知りたい・学びたい介護に関する内容について、把握をすすめます。住民が望む学ぶ機会をつくることで、介護の不安を軽減し、安心して地域で住み続けられるように支援を行います。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）	
介護についての出前講座		・介護保険の利用/介護保険以外の福祉サービス/介護施設の違いや利用方法/認知症サポーター養成講座等、住民の希望に合わせた講座をサロンや民児協・地区社協と協働ですすめるために、話す機会を持つ。 ・地域ケア会議のメンバーとも話し合いながらその仲間を増やしていく。	「介護の学びのひろば」の開催		ふれあいサロンや民児協から「知りたい・学びたい」との声に合わせて、介護保険の利用方法や施設の違いについての説明、認知症サポーター養成講座の開催等の出前講座を行うことができた。 定期的な開催はできなかったが、やはり住民の方が介護について知りたいことや学びたいことに合わせた内容にしたいので、その声を掴んでいくための話し合い・仕掛けを考えていきたい。	
目指したいこと	3・6		目指したいこと	3・6		
介護カフェの試験的試行		・地域住民が介護のことについて気軽に相談できる機会をつくるため、住民と事前に話し合いを行いながら、移動相談を試験的に行う。 ・介護について地域住民が知りたいことや学びたいことを把握できる機会をつくる。 ・地域ケア会議メンバーと話し合いながら対応していく。				
目指したいこと	6・8					
機関連携部会・地域連携部会・他法人連携会議へ出席し、話し合いをすすめます		・介護支援専門員同士が顔の見える関係づくりを行い、支援者同士の連携協働をすすめる。 ・介護支援専門員が地域住民と見守り支え合いを共に行っていくにはどのような連携協働が必要か話し合いをすすめる。 ・居宅介護支援の今後の方向性や事業所として行う研修等を協働して行えるよう話し合いをすすめる。				
目指したいこと	7・8					

・「ゆうゆうライフケアプランセンター」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

その人がその人らしく住み慣れた家で家族と地域の中で暮らしていけるよう関わり続けます。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）	
出前講座		令和6年度も住民の声に耳を傾けながら地域に向けて、事務局や地域包括支援センターと連携し出前講座を行っていく。	出前講座		ふれあいサロンの場で住民からの声を拾い、認知症サポーター養成講座や介護保険出前講座を開催した。引き続き、次年度も行っていきたい。	
目指したいこと	1・7		目指したいこと	1・7		
地域のつどいの場		男性介護者の交流会を続けていくとともに、制度の狭間の方への活躍支援や居場所づくりを行っていく。	介護を中心とした地域のつどいの場		令和5年6月に男性介護者がお互いの介護の思いや悩みを話せ、つながれる場所ができた。同じ立場だからこそ分かち合える姿を見ることができたので地域で集える場・当事者の交流会を続けていきたい。	
目指したいこと	3・8		目指したいこと	3・8		

・「もみじの里デイサービスセンター」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

利用されている方が持っている知識や経験を活かして、いろいろな活躍ができるに気軽に得意なこと・やりたいことを実現できるような仕組みを作ります。また地域の方も自由に過ごせる場づくりを進めます。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）	
昔ながらの旬の食材を使った一品レシピ		・プランターで栽培する野菜を収穫し、漬物づくりや週1回程度利用者と一緒に作る時間を工夫しながらみそ汁を作る。 ・利用者の声に耳を傾けながら、旬の食材を使った一品を作りながら、食べたい料理や作りたい料理を一品として提供できる回数を増やしていく。	昔ながらの〇〇さん一品レシピ		季節の野菜やプランター栽培で収穫した野菜を使って漬け物やみそ汁を利用者と一緒に作り昼食に提供できた。 利用者と一緒につくしを採りに行ったり、頂いた竹の子やわかめを調理して昼食に提供した。また、夕食の一品として持ち帰ってもらうことができた。 お好み焼き屋を営んでいた利用者の希望で、他の利用者と一緒に昼食にお好み焼きを焼いて食べることができた。 一方で、昼食のみそ汁や切り干し大根作りができなかったため、まずは昼食のみそ汁を利用者と一緒に作れる機会を増やしていきたい。	
目指したいこと	1・2・5		目指したいこと	1・2・5		
自由に過ごせる居場所づくり		・車いすの利用者もレクリエーション材料を自分の手で取り選ぶことができるように机の場所を検討する。 ・体操ができるように午前中はTV体操、午後はDVDやTV体操を流す。 ・利用者に準備して欲しい材料や道具などを聞きながら、趣味や得意なこと（編み物・俳句・習字・塗り絵・野菜作りなど）を活かした活躍の場作りをすすめていく。 ・玄関に設置する『つながりの場』と連携して自由に過ごしてもらえ工夫を考えながら、気軽に立ち寄れる場づくりをすすめていく。	自由に過ごせる居場所づくり		机の上に塗り絵、脳トレ、間違い探しなどコピーして置くようにすると、利用者が自分でやりたいことを選択でき、選択肢が増えたことで利用者間の会話が増えたり、やりたいことを声に出す人が増えてきた。 一方で、車いすの利用者が手に届くところに材料を置くことができなかったので、置き場所の検討が必要である。また、身体を動かしたいとの声もあるので、体操できる時間を考えたり、利用者ができる役割を活かせるようにしたい。	
目指したいこと	1・2・5		目指したいこと	1・2・5		

・「ゆうゆうデイサービスセンター」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

制度の枠にとらわれない集まりの場「よらんか学園」や、こどもデイサービスを通じて多様な方がゆうゆうライフに集まることでの地域の拠点化づくりをすすめます。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）	
こどもデイサービスの開催		継続して「こどもデイサービス」を開催するため、デイサービスの運営推進会議を中心に協議をすすめていく。	こどもデイサービスの開催		感染対策を行いながら餅つきやレクリエーションを開催出来たが、利用者との交流が少なかった。子供たちと利用者との交流を増やして行きたい。	
目指したいこと	1・7		目指したいこと	2・7		
地域との協働つながりへ		企業と協働したアイスクリームづくりをはじめ、ゆうゆうライフで収穫できた野菜など、販売を通じた地域とのつながりづくりを継続して行う。	地域との協働つながりへ		ゆうゆうライフで作った赤しそジュースを使ったアイスが完成し販売できた。次年度も地域とのつながり続けられるようにしたい。	
目指したいこと	3・8		目指したいこと	4・5		
ゆうゆうファーム		・これまで農業をされていた利用者を中心に行っていた農園づくりに、よらんか学園に来られる地域の方なども参加して一緒に野菜づくりを行い、交流する機会をつくる。 ・生産物を販売する機会をつくる。				
目指したいこと	1・3・8					

・「いちのみや訪問看護ステーション」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

訪問看護を通じて「我が家がいいな」というご本人や家族の思いに寄り添いながら関わります。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）
家族の相談窓口(どなたさまでも)		本人や家族の身近に感じてもらえるように、相談だけでなく、話を聞いてもらうだけで楽になったと言ってもらえる在宅の窓口づくりに努める。	家族の相談窓口(子や嫁世代)		訪問看護利用者や家族などが事務所などに相談に来られた時には同席させていただき、在宅の生活の不安や心配ごとなどについて一緒に話し合いを行った。また必要な場合は、専門機関につなげることができた。
目指したいこと	7・8		目指したいこと	7・8	
本人らしい楽しみのために		終末期をはじめ、医療的に処置が必要な方など、家族だけでは外出が困難な方があきらめずに希望が実現できるような機会を作っていく。	本人らしい楽しみのために		楽しみの前段階として、家族だけで外出が困難な方の体調を整えるための受診や家族の休息のための入退院に同行した。受診により悪化を防ぐ対策ができたことは有意義だったと思う。
目指したいこと	4・5・8		目指したいこと	4・5・8	

・「福祉用具レンタル事業所」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

本人や家族が感じている介護の不安・負担を軽減し、安心した在宅生活を送れるように、福祉用具の利便性を知ってもらえるような情報を積極的に発信していきます。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）
福祉用具の認知・管理・選定のデジタル化		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを活用して効率的な選定、販売・貸与用具の在庫数等の確認、モニタリングの実施状況、利用計画書・契約書の交付等を行っていく。 ・貸与用具にバーコードを付け、用具毎の使用状況を把握しやすくしていく。 ・用具の紹介動画の作成し、ホームページ等を活用して配信を行う。 	福祉用具の認知拡大		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対し携帯動画を見てもらい用具の説明・使用方法を紹介する事が出来た。 ・利用者の使用履歴や選定履歴などがその場で確認出来る様にしたい。
目指したいこと	4・5・8		目指したいこと	4・5・8	

【障がい福祉事業】

・「障がい者サポートセンター ハピくるステーション」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

内部で相談支援部会の会議を定期開催しながら、当事者や家族同士がつながり合える場づくりを引き続き支援します。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）	
相談支援部会の会議を定期開催		<ul style="list-style-type: none"> ・内部の相談支援部会の会議を定期開催にして、各センターの相談員と情報共有や協議できる場をもつ。 ・各センターでも情報共有できるようにする。 	相談支援専門員同士の情報共有や研修の機会の確保		各センターの相談員との情報共有は、年1回の内部会議のみとなっており、それ以外は個々でのやりとりになった。	
目指したいこと	6・7・8		目指したいこと	6・7・8		
当事者や家族同士がつながり合える場づくり(継続)		イベントや情報の周知、開催にとどまらず、同じ悩みをもった当事者や家族同士が相談したり、つながり合える場の提供をする。	当事者や家族同士がつながり合える場づくり		地域で開催されるまつりやイベント、わいわいサークルなどの余暇支援活動や野外活動などの情報提供や、場づくりをおこなった。ガイドヘルパーを利用し、参加のサポートを行った。	
目指したいこと	1・3・7		目指したいこと	1・3・7		

・「竹の子作業所」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

製品の売上や納品を効率よくすすめ、出張カフェなどで地域へ出る機会を増やします。地域の子どもにマット編み、出店などを通して気軽に立ち寄り知ってもらうなど、利用者が地域の方と交流できる場を模索します。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）	
販売場所の模索		定期的に納品やイベントでの販売等ができる所が増えたので、今年度は実際の売り上げや納品にかかる移動時間などを考えて、利用者が地域の方と交流しやすい場所の効率化を模索する。	販売場所の拡大		<ul style="list-style-type: none"> ・サロンやカフェでの販売の実施。 ・さの小テラス、サキア、大鳴門記念館の店舗、鼓やなどで新たに販売やクッキー作成依頼があった。 ・販売場所は増えても、売り上げが伸びないところがあった。 ・納品にかかる時間と売り上げのバランスを考える。 	
目指したいこと	1・5・6		目指したいこと	1・5・6		
竹の子カフェ(ミニまつり)を春休みや冬休みに実施		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子ども達などに気軽にマット編み体験、出店などを通して、気軽に立ち寄ってもらう。 ・春休み、冬休みなどイベントが少なくいので、気候の良い時期に実施。 	竹の子ミニまつりの開催		<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み1回ではあったが、多くの人の参加があった。 ・マット編み体験が好評、利用者が働く姿を見てもらえて良かった。 ・熱中症対策やヘルプが必要。 ・実施時期の検討。定期的に開催。 	
目指したいこと	3・5・6		目指したいこと	3・5・6		
地域に出ていく機会を増やす		<ul style="list-style-type: none"> ・クッキー、パウンドケーキ、コーヒーなどの出張カフェを福祉施設などで実施して交流を支援していく。 ・サロンやカフェで利用者がマット編みなどを教えに出る機会を作る。 				
目指したいこと	2・3・6					

・「さぬきうどん幸来」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

店外で出店するなど地域の人に来店してもらうことで地域の人とふれあう機会を増やします。SNS や広報で利用者の方が働いている姿を見てもらえるように発信していきます。

≪ 令和6年度の重点的取り組み ≫

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）	
店外で出店するなど、地域の人とふれあう機会を増やす		・福祉まつりや、竹の子ミニまつりに出店する。 ・利用者とお客さんが交流できる橋渡しができるよう、余裕をもって接する。	福祉まつりへの参加		・普段、幸来に来れない人も知ってくれた。 ・子どもなど平日に来れない人にも食べてもらえた。 ・余裕をもって利用者とお客さんとの橋渡しをする。	
目指したいこと	2・3・5		目指したいこと	2・3・5		
地域の人に利用者が働いている姿を見もらう		・幸来に来店してもらうほか、SNSや広報などを通して、利用者の方が一生懸命働いている様子を見もらう機会を増やす。	はたらく「手」		・地域の人に利用者の方が働いている姿を見もらう。 ・知り合いの人が来店時には、話ができるよう声掛けをしている。 ・広報や SNS での発信があまり出ていない。 ・すまいるつなの広報誌や社協のインスタグラム、フェイスブックへの定期的な掲載。	
目指したいこと	3・4・6		目指したいこと	3・4・6		

・「地域生活拠点ぽれぽれ(就労継続 B)」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

ぽれぽれの活動に、より多くの人に参加できることを目指した仕組みづくりをすすめていきます。また、できたての商品を提供できる機会をつくり、さらなる交流をすすめていきます。

≪ 令和6年度の重点的取り組み ≫

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）	
一緒に作業しませんか！		身近にある活動を理解してもらうこと、利用者との関わりを通じて社会参加のきっかけになることを期待して、ひきこもりがちの方などを対象にした活動の機会をつくる。	一緒に作業しませんか！		ひきこもりの方と利用者と一緒に活動ができていたが、通所手段等が本人の希望と合わず長続きしなかった。今後もひきこもりがちの方を対象に利用者と一緒に作業していきたい。	
目指したいこと	2・3・5		目指したいこと	2・3・5		
定期的な屋台販売		・放課後子ども教室のお迎えの時間や、いきいき 100 歳体操に来た方など、人が集まる時間帯に、利用者と一緒にぽれぽれの商品を販売する。 ・利用者の登所時間を遅らせるなどの工夫をし、15:00～17:00 頃までコロッケや自主製品を販売していく。	定期的な屋台販売		時々小・中学校がコロッケを買いに来てくれたり、サロンでの販売は行えたが、広報活動はできなかった。次年度は、屋台を作ったの本格的な販売を行ってきたい。	
目指したいこと	3・5・6		目指したいこと	3・5・6		

・「地域生活拠点ぽれぽれ(生活介護)」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

デイサービスや事業所を利用される方と地域との交流を通じて、それぞれの役割を意識し、活躍できるようにしていきます。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	(令和5年度の重点活動)		(令和5年度の振り返り・チェック)
地域の方との交流を増やす		いきいき 100 歳体操に来られている住民の方々とも徐々に打ち解けているように見えるので、今後は他にもお花見や散歩等の催しを考え、より一層の交流や活躍の場を作っていく。	地域の方との交流		100歳体操も回を重ねるごとに、住民の方に利用者の事を知ってもらい、声をかけ合える関係になってきており、互いに良い関係性が出来ている。一方で、100歳体操に来られた方へのおもてなしについては、地域の方の遠慮もあり、現在お茶出しはできていない。
目指したいこと	1・3・5		目指したいこと	1・3・5	
さらなる活躍の場を拡大します		レクリエーション素材を、地域に出て調達する役割を利用者全員で担っていく。	さらなる活躍の場にします		季節の食材(わかめ・つくし・野菜等)を利用者と採りに行ったり、料理が得意な利用者に教わりながらみんなで調理したりと、楽しみも増え、交流も深まっている。また、利用者の発案した座布団兼防災頭巾を、デイサービス利用者と一緒に指網で作成した。
目指したいこと	1・3・4		目指したいこと	1・3・4	

・「地域生活多機能拠点 いづかしの杜」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

人と人とのつながりを絶やさず大切にしよう。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	(令和5年度の重点活動)		(令和5年度の振り返り・チェック)
いづかしフリーマーケット		いづかしの杜に人が集まるような機会(行事)を設け、一緒に開催できるようにお知らせや呼びかけをして実現していく。	いづかしフリーマーケット		利用者の家族にお願いをして、家で眠っているものや不要なものを持って来てもらい、なんでも屋や移動販売で販売をした。もっと呼びかけやお知らせが必要だったと反省。
目指したいこと	3・5・8		目指したいこと	3・5・8	
			子どもの弁当屋さん		事業計画やお知らせ、呼びかけが不十分で実行できなかった。
			目指したいこと	5・7・8	
			いづかしガーデニング部		事業計画やお知らせ、呼びかけが不十分で実行できなかった。
			目指したいこと	1・3・5	
農繁期が落ち着いたら寄ってっ！		令和6年度は年間行事として計画して、お知らせや呼びかけを多くし、幅広い年齢層の人たちに集まってもらいたいと考えている。また、来られない方にはお届けできるようにしていく。	農繁期がおちついたら、一回寄ってっ～!!		夏に地域の人達とご飯を食べる機会は持てたが、子どもからお年寄りまでの幅広い年齢層の集客には至らなかった。呼びかけやお知らせが足りなかった。
目指したいこと	2・3・5		目指したいこと	2・3・5	

・「あいあい作業所」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

これまでの地域交流の場づくりと共に、生きづらさを抱えている人が元気になるきっかけの場所づくりもすすめていきます。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）	
あいあいサロン		これまでではできていなかった「企画の段階から、あいあいサロンボランティアの方と話し合う場」をつくり、夏休み以外の季節にもあいあいサロンの開催を行う。	あいあいサロン		あいあいサロンと小さな夏祭りを3年振りに開催。次年度も規模を縮小することなく地域のつながりを重ねていきたい。	
目指したいこと	1・2・8		目指したいこと	1・2・8		
学校交流学びの場づくり		・学校との交流学び場づくりに取り組む。 ・小学校の子どもたちと新しい自主製品の共同開発することも視野に、小学校との交流を通じて、地域の子どものアイデアを取り入れていく。	学校交流学びの場づくり		令和3年度・令和4年度と交流を行ってきたが、学校側への声掛けのタイミングが合わず取り組むことができなかった。次年度は事務局とも協議し利用者との交流の機会をつくりたい。	
目指したいこと	4・7		目指したいこと	4・7		
生きづらさを抱えている人との場づくり		地域の生きづらさを抱えている人と利用者が一緒に作業をしたり、昼食を作って食べたりすることができる機会をつくる。				
目指したいこと	2・8					

・「ひまわり作業所」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

ひまわり作業所では、クッキーや玉ねぎドレッシングの製造販売、わいわいサンリッチ喫茶、郵便局メール便配達、内職作業など様々な仕事をしています。近年、東浦地域の小中学校との交流・イベントやオープンカフェを通して、住民の方々と出会える機会、顔の見える関係づくりのため、外に向けた活動にも力を入れています。ひまわり作業所が、出会い、つながり、居場所となるような活動をすすめてまいります。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）	
「わいわいサンリッチまつり」と「ひまわりわいわいまつり」		・わいわいサンリッチまつりで令和5年度開催した20周年イベントが大盛況だったこともあり、サンリッチを地域の方に知ってもらえる機会となるように5/3(金)に開催する。 ・ひまわりわいわいまつりを7/31(水)に開催。楽しいイベントを行い、学校とのつながりをより深めていく。 ・安心して立ち寄れる地域の「居場所」になっていけるような取り組みを行う。 ・夏休みの思い出づくりとなるような体験型の内容を検討する。	ひまわりわいわいまつり		8/4(金)に開催。チラシを学習小4年生との交流時に作ってもらったこともあり、小学校・中学校の子どもたちがたくさん来てわいわいと楽しいまつりを開催することができた。	
目指したいこと	5・7・8		目指したいこと	5・7・8		
オープンカフェ・クッキー、マフィン即売会		・オープンカフェ開催:4月、6月、9月、11月、1月、3月 ・即売会開催:5月、7月、10月、12月、2月 ・オープンカフェとクッキー・マフィン即売会の開催を定着させ、出会い、交流、憩いの場となる取り組みをすすめる。	定期的なオープン作業所		オープンカフェ:5月7月9月11月1月(3月予定)、即売会:6月10月2月に行うことができた。近隣の事業所などに掲示してもらったが、次年度は、決まったお客様以外の方に来てもらえるような働きかけが必要だと考える。	
目指したいこと	3・4・5		目指したいこと	3・4・5		
地域に出向いて多世代交流		ひまわり作業所のことやメンバーのことを知ってもらい、顔なじみの関係づくりをすすめるために、地域イベントへの参加、出張喫茶(コーヒー、クッキー、マフィン販売等)、ランチ販売を通して、地域の様々な世代の人と出会うきっかけをつくる。				
目指したいこと	3・4・7					

・「ケアホーム いちごの家」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

年に何回かはみんなで外出する機会をもつなどして、地域と交流できるようにします。また、収穫した野菜の活用を地域のボランティアと一緒に考えます。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）
年に何回かはみんなで外出する機会をもつ		<ul style="list-style-type: none"> ・季節の良い時期に花見をしながら昼食をとる。 ・カラオケにみんなで行くなど、希望を話し合っって企画を作る。 	あわ神あわ姫バスで外出		<ul style="list-style-type: none"> ・あわ神、あわ姫に乗ってリフレッシュすることが出来た。 ・全員での参加が出来なかった。 ・個々の行動は出来るがグループで何か一つでも話し合っって出来るように支援したい。
目指したいこと	3・4・5		目指したいこと	3・4・5	
収穫した野菜を調理できるようにする		<ul style="list-style-type: none"> ・水やりや収穫の当番表を作る。 ・グループホーム内だけでなく、地域の人たちとも活動できるように、地域のボランティアを募って休日にケアホームで簡単な調理を一緒にするといった企画をする。 	野菜作り		<ul style="list-style-type: none"> ・ピーマン、ミニトマトを植えることは出来たが、毎日の収穫や水やりは継続できない。
目指したいこと	3・4・5		目指したいこと	2・3・4	
少しでも自分で出来ることを増やせるような目標をもち、地域交流をする		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、目標を達成できたかチェックする。 ・グループホーム等の中だけでなく、地域で地域の人たちと活動できることに取り組む。 			
目指したいこと	1・3・5				

・「ケアホーム ハピくるの家」の共生循環型地域社会づくりに向けた事業方針

東浦地域の街中にある立地を生かして、町内会や近所の人たちとの関係づくりに今一度注目し、共に生きていく基盤づくりをすすめていきます。

《令和6年度の重点的取り組み》

タイトル		内容	（令和5年度の重点活動）		（令和5年度の振り返り・チェック）
庭や花壇の水やりを当番制で行います		<p>朝の時間帯に、花や野菜の水やりを利用者とともに行うことで、ご近所や地域の人とあいさつから始めるなど、お互いに知り合うきっかけを作っていく。</p>	花の水やりから生まれる出会い		<p>ハピくるの家の庭や花壇には、少しずつ花苗が増えてきています。家の前を通る人々との挨拶や声を掛けあう機会を作りたいと考えていたが、帰宅後には通る人々も少なく、出会うきっかけ作りが難しいと感じた。挨拶や声を掛けあう機会の出来る時間帯を増やしていければと考える。</p>
目指したいこと	3・4・5		目指したいこと	3・4・5	
町内会行事(まずは一斉清掃)への参加		<p>利用者と一緒に町内会の一斉清掃(毎年6月の休日)に参加し、町内会の方と出会う機会をつくる。</p>	一斉清掃など町内会行事への参加		<p>町内会行事に参加して、出会いの機会を広げたい1つとして、町内会一斉清掃を目標として挙げたが、休日の為利用者は帰宅している。職員と一緒に休日参加が実現できればと考える。</p>
目指したいこと	3・4・7		目指したいこと	3・4・7	